

季節のことば

のどかな春の日は、西に傾いてもなかなか沈みません。虚子の句に「湯に入りて春の日余りにけり」というのがあるし、「春日遅々」ということばもあります。

「春の日とかけて、親類の金持ちと解く」とはよく知ら

れる謎解きですが、そのころは、「くれそうでくれない」のどかでんびりといった春の気分から程遠い昨今の景気ですが、きらめく陽光と新緑、すべてがあらたに始まる再生の春にあやかりたいものです。

Mikasa NEWS

三笠ニュース

●あなたと三笠をむすぶホット情報●

PR年報/年4回発行
発行所 三笠産業株式会社
郵便番号101 東京都千代田区猿蓑1-4-3
電話03(3292)1411大代表 ファックス03(3233)0530

Mikasa バイプロコンパクター 重量級MVH400/500登場!



MVH-402DS
バイプロコンパクター

ご好評いただいておりますMVH-200型/300型三笠バイプロコンパクターシリーズに1クラス上の重量級MVH-400型および500型が加わり益々充実のラインアップとなりました。

MVH型前後進バイプロコンパクターシリーズは、振動締固め機械の開発に半世紀の歴史と伝統を有する三笠の自信作として平成2年の春、MVH-200型

仕様

		MVH-402DS	MVH-502DS
主要寸法	全長	1525mm	←
	全幅	550mm	←
	全高(ハンドル)	1100mm	←
	全高(本体)	930mm	960
	輾圧盤(長さ×幅)	900×550mm	←
総重量		440kg	500
性能	振動数	4200VPM	←
	遠心力	5600kg	6300
	輾圧速度前進	0~23m/分	←
	後進	0~23m/分	←
エンジン型式		ヤンマー-L100A (ロビンDY41搭載可)	HATZ ID80
最大出力		ディーゼル 10ps/3600rpm	ディーゼル 14.3/3000

を発表。続いて300型が登場し、以来強力な輾圧力と油圧方式による使いやすさが高い評価をいただき各地の現場でご利用いただいております。

そして今回新登場の400型および500型は、使いやすさはそのままに重量と輾圧力を大幅にアップいたしました。400型は自重約440kg、エンジンはヤンマー-L100AまたはロビンDY41(最大出力10PS)を搭載可能です。500型は自重約500kg、エンジンはハッツID80(最大出力14PS)で、両機種ともディーゼルエンジンです。また電動スタートですので、作業中や狭い溝の中での「起動」「停止」が容易にできます。重量が重くとなり、より効果的な締固めができるとともに、運転・操作の面では前後進切り換えのレバー操作はエンジンの動力を利用した「パワーシフト」にしておりますので、よりなめらかに切り換えができ、効率良く運転ができます。

ベルト駆動部は密閉構造で土砂や小

石等がベルトを傷つけるトラブルを防ぎます。輾圧盤は解放構造ですから作業中に入り込んだ土砂などは簡単に除去、清掃できます。また300型と共通の補助輾圧盤が利用できますので、より広範な締固め作業に対応できます。

400型/500型シリーズの登場で、これまでの200型/300型とも合わせて、ユーザーの皆様には工事の多様性、経済性と現場のニーズに合わせて機種選択の幅が広がりました。

現代の情報化社会に合わせた光ケーブル関連工事においても、溝工事が大きな要素を占めております。また上下水道、特に下水道工事は最も必要とされています。現在の下水道普及率47%(全国平均)を21世紀初頭までには70%に上げようと関係者の方々は日夜努力されています。この複雑な交通事情の中での工事においては、迅速な道路解放なども要求されます。この時代の要求にお応えできるのが、「三笠バイプロ



横須賀にその名も芸術劇場という本格的なオペラ仕様の殿堂が誕生した。ミラノスカラ座とまでは言わないが西欧風の円形多層客席を設けた視覚性や音響性に優れた構造を持った典雅な劇場である。そのオープニング初公演がオペラ「蝶々夫人」だったから私も春の一夜、ブッチェリの甘美な曲と哀切な長崎ロマンスを愉しんだ。

ところでここ数年来全国あちこちで豪華な文化施設の誕生が伝えられ、私の住む葉山周辺だけ見ても鎌倉芸術館、藤沢文化ホールそしてよこすか芸術劇場と妍を競うことになった。このような立派な殿堂にふさわしい公演なり催しを今後とも維持できるのだろうか、そんな余計な危惧の想いが浮かんだのは自分ながらおかしかった。もうひとつ、これまた奇妙な思い付きが駒鳥のことだ。「駒鳥が巣を作る頃にきっと帰るから…」の言葉を信じてピンカーンを待ち続ける蝶々さん。その駒鳥がどんな鳥か私は知らないままこの名作オペラを幾度も観てきたことに初めて気付いたのである。どうやら春を象徴する小鳥のようだが…と帰宅して辞書を開いてみた。ヒタキ科。雄は顔から胸にかけて美しい赤色。高山帯の渓流に沿って繁殖する夏鳥とある。納得出来ず英語の辞書で調べるとロビンスノウ春の雪とあって、やっぱり駒鳥は春告げとされている。

芸術劇場オープン。外米輸入と国産米パニック行列。まことこの世は整理もされずに筋書もないドラマの連続であるが、一刻も早い景気の回復だけは駒鳥の巣を作る頃のように待ち望まれてならない。

コンパクター」であると信じております。当社製品の油圧操作振動機構は特許製品で、すでにMVH-200型/300型をご使用しておりますユーザーの皆様の高い評価と信頼をいただいておりますが、ここに紹介させて戴きました400型/500型コンパクターも合わせてご利用いただきますようお願い申し上げます。

ARA展示会

白熱の販売会議進行に
思わず時を忘れた…

副社長 京谷 弘也

久しぶりの海外出張、気がつくパスポートも期限切れとなっている。慌てて申請して子供のおもちゃのような新サイズのパスポートを受取りいざ出発となる。成田の第2空港ターミナルビルからの出国は勿論初めてだが、なかなか機能的によくまとまっているという印象を受ける（今までの成田ターミナルと比べれば当然だが）。只、無機質というか無国籍的というか個性が全く感じられない。我々建設関係業界に携わる人間としては世界に誇る日本の建築技術はこんなものではないと思うのだが……関西新空港に期待しよう。

今回の出張はこのところ日本の不景気を尻目に景気回復の兆しが鮮明なアメリカとNAFTA発効後その市場性が俄然注目の的となっているメキシコ訪問である。しかし両市場ともクリントン大統領の対日強硬姿勢を見るまでもなく日本からの完成品単純輸入には否定的で、円高の影響もあって我々にとっては大変厳しい市場である。

2月5日(日)ARA（アメリカレンタル協会）展開催を明日に控え三笠の全米総代理店マルティクイップ社（以下MQ社）のセールスマーケティングが行われた。場所がマイアミというリゾート地だけにセールスマンの服装はTシャツに短パンという姿から、ネクタイ族まで様々だが集まった50人あまりのセールスマンは年1回の最大セールスイベントを前に顔つきは真剣そのものである。

合言葉はM&M

朝8時30分から始まったセールスマーケティングはまずMQ社社長Mrレビンの大変力強く非常に説得力あふれる基調方針演説で始まった。続いてそれぞ



賑わいを見せるMQ社のブース

れの担当マネージャーによる販売目標の設定や新製品の紹介またコミッションプログラム（営業マンに対する特別販売コミッション）の発表やファイナンスプログラム（大量購入得意先に対する特別ディスカウントや支払条件等）の説明など重要な議題が続き昼食をはさんで午後4時まで続けられた。

随所にジョークを交えたり、競合他社製品との相違点を明確に表現するなどアメリカ流のストレートな表現は大



ホワイトマン社の工場は雪の中だった

変わりやすく、時間の経過が大変早く感じられた。また、これだけの長時間にわたる会議で全員の集中力を落とさせることなくスケジュール表通りに運営される会議の進め方には非常に感心させられるとともにいい勉強の機会となった。

ちなみにMQ社の今年の合言葉は「M&M」つまり三笠製品とホワイトマンのミキサーを主力に販売するというもので、会議中レビン社長と小生との話し合いで優秀セールスマンは来年春日本に招待すると突然発表したこともあり大いに盛り上がった。

午後7時から開かれたMQ社、MQパワー社（主に大型ジェネレーター、コンプレッサーの販売会社で、MQ社の子会社）合同のARA前夜祭は我々供給メーカーのゲストも交え総勢100人余が集まり翌日からのARA展での健闘を誓いあった。

最高記録で売上達成!!

2月6日(日)ARA展'94（3日間）の開幕である。このARA展と他の展示会の最大の違いは多数の来場者を集め機械を見てもらうという一般の展示会でなく、あくまでもレンタル業を営む業者だけを対象に、期間限定の特別価格による受注契約を行う点にある。その為、来場者もARA加盟会社（日本という全国機械器具リース業協会のようなもの）の人間がほとんどで、一般のユーザーはべらぼうに高い入場料によりほとんど来場しないという。従い各メーカーにとってこの展示会に対する意気込みは非常に大きく、ARA展3日間の売上がその年1年間の販売バロメーターと位置付け積極的な販売合戦が繰り広げられるのである。さて、さっそく今年のARA展だが、例年通り入場口のまん前、正に一等地にMQ社のブースが展開されていた。勿論MQ社、MQパワー社、ホワイトマン社を合わせて出展者中最大のブース面積である。来場者はまずこのブースに立ち寄って中に進むこととなるわけだが、我々三笠の製品はMQ社のメイン商品として取扱機械のほとんどがデーンと正面に展示してあった。入場した人はいやでも最初に三笠製品を見ることになり、私としては思わず笑みを浮かべることとなってしまった。中でも今年

の新製品として発表した大型エアクリナー付のランマー（今のところ国内未発表だが）に来場者の関心が集まっていた。昨日のセールスマンミーティングでハッパをかけられているせいもあり説明をしているセールスマンも力が入っており、全員が忙しそうに来場者に話かけていた。今年はかなりいけるかもしれないという期待を感じることとなる。また、MQ社のもう一つのメイン商品であるホワイトマンのパワートロウエルやミキサーも順調に人を集めており、中でも、今回のARA展で初めて発表された小型トロウエルC-4には黒山の人だかりが出来ていた。この商品は三笠も今年の夏頃より国内販売をスタートする予定です。

その後、朝の来場者が一段落したところでライバルメーカーのブースを一通り見て回ったが（敵情視察）特に目新しい新製品はなく、ブース内にいる来場者も少なく詰員は手持ちぶさたで、詰員同士で話をしている姿がいやでも目についた。

さらにその晩マイアミの高級ホテル「フォンテンブローヒルトン」でMQ社主催のコメディショーが開催された。集まった1000人余の来場者はMQ社の顧客から潜在的顧客まで、多様だが、プロのコメディアンジョークに笑い転げ、リゾート地マイアミの一夜を楽しんでいた。こうした積極的な企画はMQ社の得意とすることであり、製品の販売を大いに手助けすることとなった。結果、3日間のARA展でMQ社グループ全体の記録的売上を達成！わ

れわれ三笠にとっても大量の追加オーダーを得たのだった。

アメリカ製造業の復活

ARA展の盛況を確認したところで、次の目的地アイダホ州ボイジーのホワイトマン社へ向かった。気温25°のマイアミから一転今度は雪に見舞われる。おまけに飛行機が遅れ、デンバーでの乗り継ぎに人は間に合ったものの荷物は間に合わず、着替えも出来ず寒さに震えての一晚になった。しかし2年ぶりに訪れたホワイトマン社工場は見違えるように改善されており、工場内の整理整頓は勿論、各所で積極的な設備投資と合理化が進められていた。中でも最近設置されたパウダーペイント（粉体塗装）のラインは素晴しくこれが最近よく聞く「アメリカ製造業の復活」の一端かと思ひ知らされた。ただ我々三笠としては北米向けの一部製品をこの工場で生産する計画がありこうしたホワイトマン社工場の大幅な進歩は非常に歓迎するところである。

その後メキシコにて3日間の商談をこなしてから、大雪の東京へと帰国した。

新たな戦略

今年のARA展はMQ社にとり大成功に終わったが小生にとってはアメリカ景気回復を実感するとともにアメリカという国の底力を見せつけられた気がした。同時にこの円高下NAFTA発効後の北米市場は勿論南米まで含んだ新たな販売・製造戦略を早急に練り直さなければと、強く感じた出張となった。

'94ローズボールパレード親善訪問記

春日部工場 長谷川 太郎

トーナメント・オブ・ローズの見学の話が持ち上がったのは、昨年の夏バサディナ青年会議所（JC）のメンバーと広島・京都旅行の折、新幹線の事故のため急遽バスに乗り込み東名高速を走っている時の事だ。2時間以上も京都駅に立ち往生し、東京まで帰るかという不安と、何とかしなければというストレスから解放され少し気が緩んではいた。あのバスの中で、パレードを見に行く約束をしていたのだ。

私の所属する春日部JCは、8年間にわたり米国カルフォルニア州のバサディナJCと交流を続けてきたが、この活動が実を結び昨年7月に両市の間で友好都市協定が結ばれた。バサディナ市は1886年に市政施行、人口13万4千人、1月でも平均気温が14度もあり、バサディナ（インディアン語で「谷間の王冠」という意味）の名前の通りとても美しい町だ。

大晦日の午後、バサディナ市内に土産物を買ひに出かけてみた。コロラド通りを走ると、両側の歩道に人々が思い思いの椅子や寝袋、毛布などを持って座り込んでいる。彼らは1993年の大晦日をコロラドブルーバードの大パーティーを楽しむため、そして何よりもローズパレードを少しでも近くで見る



ため全米各地から集まっているのだ。日がかげり始め、あたりが暗くなるとその大パーティーが始まる。ハーレーのローライダーが集団で爆音をあたりにまき散らすと、観客から歓声が沸き起こる。子供達はマシュマロやシェーピングクリームを通りかかる車に投げつけている。まだローズパレードは始まった訳ではないが、ローズパレードの沿道7キロにもわたり百数十万の人達がこうして一晚中騒ぎ続けるのだ。

明けて1994年1月1日午前8時、最初のプラスバンドの演奏とともにパレードが開始された。フロート（山車）が通ると関係者から声援が送られる。フロートは全て自然の花や植物で彩色しており、その色彩の美しさはカリフォルニアの明るい太陽の下で輝きを増し、各フロートのユニークなアイデアを見る者の目を釘付けにして離さない。

次ページへ続く

前ページから

世界中の町から選ばれたブラスバンドはどれも壮大で、なかには数百人で構成されているものもある。また騎馬隊もそれぞれがテーマの違う扮装をして現われ、その豪華な扮装は見るものを圧倒するばかりだ。

さてエントリーNo.104番、J C (青年会議所) フロートの出番となる。多少小振りだが春日部J CとバサディナJ Cが初めて共同で出展し、世界中の注目を浴びているのだ。

ふたつの島は日本と米国を意味し、そこには友好の橋が架かり、橋の上には各国の民族衣装を着た子供たちが乗って手を振り、空には世界中の風とその中央にJ Cインターナショナルを象徴した風が上がっている。関係者としては胸を張る思いがした。

午後、パレードの余韻を残したまま、今年はUCLAとウイスコンシンの間で戦われるローズボールへと向かう。競技場の入り口でバサディナ青年会議所のメンバーがプログラムを販売している。彼らはこの利益で1年間の活動費の大半を稼ぐのだ。

10万1千人入る競技場はほぼ満席で、われわれの席はウイスコンシン側の20ヤードラインの中央寄り、前から7列目だ。

競技前半はウイスコンシンが圧倒的なパワーで押しまくり、UCLAは見る蔭もない。それもそのはずで、ハーフタイムの応援合戦では会場の2/3が31年ぶりに出場したウイスコンシンの応援をしており、中にはウイスコンシン州の名物のチーズを型どった帽子をかぶり、チームカラーの赤でボディペイントしている者までいて、UCLAは試合よりも応援団のパワーに圧倒されているのだ。流石にフットボールの名門校といわれるUCLAの後半の追い上げは素晴らしいものがあった。しかし残念ながら最後の十数秒で逆転を賭けたタッチダウンが決まらず、ウイスコンシンの勝利に終わった。

長いようであつたという間に過ぎた1週間であった。滞在中いろいろお世話になった米国代理店MQ社の副社長ケン・パトナム氏、キム・サイドン氏そして伊藤忠商事の安田氏に紙面を借りてお礼申し上げたい。



通称「ブンさん」文蔵さん。宴会になれば「三笠の取り」が定冠詞。その玄人はだしの歌唱力に太刀打ちできるものは悔しいけれど三笠ファミリーに誰もいない。カラオケ時代の今日でも「ブンさん」の王座が揺るぎもしないのは何故だろうとインタビュしてみました。

「僕も始めは酒に浮かれての演歌だったのが凄くイイ先生と知り合っで姿勢を正したわけですよ…」先生とはNHK歌謡コンクール初代チャンピオンの吉沢八郎さん。現在も先生のお宅でレッスンを受ける。それも超高級ピアノ・スタンウェイで…というからカラオケボックス組とは格が違う。さらに、自宅には完全防音装置の部屋を作っていること。「年寄り（ご両親）が煩がるので随分の出費でしたが…」と苦笑しながらも、腹の底から歌える歓びのエピソードがある。「ではもうセミプロ？」ところが「いいえ」と強く否定し「あくまでも趣味です」とはっきり。埼玉テ

レビで歌わないかなどと話もあったが断りしたそうだ。もうひとつ我々と違う点が聴力。技術研究所の試作機械



重要部分は殆どすべて「ブンさん」の旋盤から生み出されていると聞いて、記者はふと昔の学校工場時代を思い出した。旋盤操作には耳のいい者だけが選ばれたのであった。「そうですね確かに聴力が大切です。音とリズムに敏感でないとね…」

本名は三ッ木肇。肇とは物の始まり、おこり、基の意味。技研にふさわしいお名前である。では何故「ブンさん」かはご存じ上州の俠客国定忠治筆頭の子分・三ッ木の文蔵。日光街道の宿場町で知られた幸手市内に家を構える三笠の文蔵さんだが実は生れが上州下仁田、いつしか人呼んで三ッ木の文蔵になりました。昔の文蔵の長ドス、サイコロを旋盤とマイクに持ちかえて三笠の文蔵は真っ正直に生きているのでございます。

闘志 闘魂



自転車製造の明治人
梶野仁之助(神奈川県出身)
(1856~1942)

春は自転車に乗って、という小説もあった。お使いは自転車で颯爽と…は昔なつかしいラジオ歌謡。ペダルをこいで新緑の道をゆく爽快さはどんな時代になっても変わらない。4月・5月・6月。この快適な季節版の『三笠ニュース』今号は自転車を取りあげてみることにしました。

今日の駅前放置自転車や廃棄ゴミ自転車という困った現象など想像すらできなかった明治29年に『自転車術』と題した小冊子が出版されています。この巻末に『梶野自転車製造所』の広告が見開き2ページにわたって掲載されているのは、昭和50年代になって自転車の歴史に関心を持ちはじめた人々の間で話題になったものでした。

梶野さんとはどんな人物だったのだろうか？製造所のその後の発展は？そして子孫は何処に？

ともかく広告の概要を読んでみましょう。「梶野自転車製造所」は明治12年開業。横浜市高島町5丁目にあり、なお、東京市神田錦町1丁目に自転車練習所として「梶野支店」が置かれていた。なんと三笠本社からもさほど遠くありませんね。製品は空気入りゴムタ

イヤ附着(全重量凡3貫目)が金百拾円、柔質タイヤ附着(重量5貫目)が金八拾円。但シ婦人用ハ各等級定価二拾円ヲ加ウ云々。ついでに広告冒頭のコピーも引用してみると「自転車往時ノ人ノ知ラザル特殊ノ快味アル進歩的活動機ニシテ実用ニ運動ニ娯楽ニ供スベキ経済的要具ナリ……」。吾ガ製造所ハ創業以来ココ17年間寸刻ノ油断ナク改良ニ従事セシ今ヤ其効漸ク顕レ…」明治24年には初めて支那に輸出し、その後ハワイ、ロシア、シンガポールへ輸出、と自信を披露。国内では内閣会計課、陸軍省各憲兵隊、通信省各郵便局電信局、横浜警察署御用。

自転車の製造業が独立した産業分野のひとつとして確立されたのはいつからか、という点はいろいろな見方があり不明な部分が多いのですが、そうしたなかで「梶野自転車製造所」が先駆者の位置にあることは疑えません。

明治工業史という本によると「自転車の我が国に輸入せられしは、明治8年ごろにして、当時は実用よりむしろ娯楽を目的とせし三輪車なりき。明治17・8年の頃、木製三輪車ならびに二輪車大いに流行せり。明治20年横浜市の人・梶野某、高輪(ダルマ)自転車を模倣製作し更に同23年、安全車と称する二輪車を作りて通信省に納入したと云う。

この「梶野某」について「横浜市史稿」は次のように書いています。

「自転車使用のや、実用期に入った明治24・5年頃、梶野伊之助と云う人、高島町10丁目10番地に工場を設け盛んに日本製品の販路を拡張し、全国に名声を博していたが、明治末頃廃業してしまった。かくして梶野は横浜を根拠として自転車を実用化しその進歩発展改良に尽くした功績は偉大なものとい

わねばならぬ。明治41年に刊行された『横浜成功名誉鑑』(横浜商況新報社)の発掘によりもっと具体的な「梶野さん」が判ってきました。

和製自転車の嚆矢・梶野仁之助君は質屋から時計商に続き、明治13年初めて蓬萊町に自転車工場を設け、21年に高島町に移った。28年頃、米商パンタイン社のコルトン氏の手により米国製の見本を得て益々奮勵し、ついに一切本邦製品をもって構造して米国に輸出した。明治35年渡米、幾多の製造工場を視察して帰り、多に得るところあり以て今日の盛況を來した。和製自転車の製造販売は他に其数少なく、製品に対しては宮内省及び参謀本部の御用達を蒙りておる。日露戦争当時には従軍して酒保を命ぜられしが、その後韓国城津に店舗を開きて雜貨類をひさぎ、高島町工場は老練なる管理人をして主宰せして居られる。君は相州津久井郡の人本年52才を迎えられたのである」

これが明治41年現在なら横浜市史稿の「明治末年頃廃業」といい名前の不統一といい不明な部分が多い人である。明治初年から自転車に関心を寄せて製造を試みた人といえば福島県の人・鈴木三元がよく知られており、明治41年の内国勸業博覧会には鈴木氏の「三元車」を出品。梶野の名が博覧会に現われるのはその9年後だから謂わば後進というわけ。

鈴木三元は福島県下筆頭の富豪でしたから毎日ように鍛冶屋や大工を自由に呼び寄せて研究と製造に熱中したことが日誌に書き残されているとのこ

とですが、晩年は和歌と医業に専念、東京上野の別邸で明治23年5月に没しています。同時に事業も廃業。享年70才でした。

自転車の歴史研究家の間ではこの鈴木三元車製造と梶野自転車製造所とが何らかの関係があったのではないかと推測されているようです。その研究家のひとりで熱心な大津幸雄氏(神奈川県小田原市)が調査作成した梶野仁之助略歴からエピソードをいくつか拾い上げてみましょう。

1864年(元治元年)8才で父の死亡により親戚に引き取られ、同家の家業である醤油醸造の見習い手伝いをする。明治5年、15才の時醤油樽の木片を利用して木製自転車を作る。

明治10年、横浜の灯台局に就職したが2年後、自転車製造工場を始めた。

明治38年、工場管理を総て甥の松本次郎吉に任せ、本人はさらに多角経営に乗り出した。工場の最盛期には職工が40人もいて大正2年まで順調。

大正5年、自転車製造を中止。工場は閉鎖し売却。理由は支配人である甥が辞職し使用人も去ったためという。

大正10年、梶野式特許傘を考案。

大正12年、関東大震災を機に総ての商業活動から引退。東京大田区に新居を構えて隠居生活に入る。

昭和17年、自宅で逝去。行年87歳。菩提寺は横浜市西区にある通称赤門、光明山東福寺。

(佐野裕二先輩から寄贈されたその著書『自転車の文化史』を参考にしました)

北海道三笠レンタル会 技術研修会を開催



北海道三笠レンタル会では、今期事業の一環として1月17日より1月28日までの2週間、全道7ヵ所（帯広、北見、旭川、滝川、室蘭、静内、札幌）に於いて技術講習会を行いました。

日頃レンタル機にご使用頂いている高周波パイプレーターを始めMT-50V型オイルバス式ランマー、MR-6DB型ローラーを中心に修理方法や効率の良いメンテナンスができるよう技術指導が行われました。またエンジン関係では富士重工業(株)様の技術者の方々に応援を頂き、EC08GHエンジンの基本原理から分解組立が行われました。普段から皆様が手にする機械が多く、かなり専門的な奥の深い質問も多く出されていました。

冬場の点検具合によって一年の仕事が左右されてしまう為研修を受けている方々も真剣そのものでした。我々もより一層皆様のお役に立つ研修会になるよう頑張らなければと、痛感する次第です。

なお、ご出席頂きました皆様には貴重な時間を頂きましてありがとうございます。北海道三笠レンタル会も皆様共々発展していくよう所員一同努力していきたいと存じます。

札幌課 向成記

大盛況だった '94オープニングフェア 札幌営業所

北国北海道でも随所に春の訪れを感じ

る3月16日(水)・17日(木)の二日間、三笠産業(株)札幌営業所におきまして毎年恒例になりましたオープニングフェアを北海道三笠レンタル会の協賛によりまして盛大に開催いたしました。

当日は、札幌近郊はもとより、旭川、函館等、遠路はるばる大勢のお客様においでを頂き、大いに賑わいました。

会場には好評発売中のマイコンパイプレーター、基礎帳圧を一層スピーディーにするMVH-302DSパイプロコン



第37回笠友会総会開催

恒例となった東京駅、銀の鈴下に三々五々集合。一人の遅刻者もなく、無事出発しました。久闊を叙する言葉も終わらぬ内にはや熱海到着。今宵の宿、大観荘に向かい、小憩の後にいよいよ第37回笠友会総会の幕は切って落とされました。多

羅尾笠友会会長の挨拶の冒頭で、昨年末物故された星野相談役の事に触れられ、御冥福を祈って黙禱を捧げました。扱、全会員期待と注目の的である京谷社長のお話が始まりました。三笠産業の過去1年の業績、近い将来の展望等を具体的な数字を挙げられて明確に説明して頂きました。不況に泣く一流企業の多い中で、赫々たる実績を示されている事を知り会員の信頼感が一層増したことは言うまでもありません。しかし、そのあと、現今の厳しさを増した社会情勢、経済環境、海外事情等について、熱く激しく語られ、会員の自



パクター、よりスタイリッシュになったMCD-210シリーズカッター等々展示して三笠の品揃えの多さを見て頂きました。

毎年好評であります無料ゴルフレッスンも、雪解けに備えまして、両日共にお客様が順番待ちするほどでした。

例年通り樽入りの生ビールも用意され、焼き鳥やうどん等を食べながら商談に技術指導にと賑わい、その場で数多くのご成約を頂き、誠に大盛況のフェアとなりました。これも北海道三笠レンタル会会員の方々をはじめ代理店の方ユーザーの皆様のお蔭と深く感謝申し上げます。来年もまたより一層皆様に喜んで頂けるフェアにしたいと思っておりますので、一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

札幌課 丸山記



たち10人のお酌で座は盛り上がり、そのまま二次会に突入、熱海の夜は賑やかに且つ清らかに更けて行きました。

明ければ翌19日、経済の復調を暗示するような穏やかな日恵まれ、社長派と副社長派（これは冗談、失礼）観光組とゴルフ組に分かれ、半日を充分堪能し、小田原駅で解散しました。

会員の皆様、来年の総会を目標に、頑張って元気に再会しましょう。

尚、親睦ゴルフ大会は駿河湾を一望に見下ろす風光明媚なコース、西熱海ゴルフ場で行われ富士重工業(株)の望月部長が優勝、準優勝は(株)タマフレックスの田摩取締役でした。

大和物産 川越記

三笠クイズ VOL.13

【問題】 タテとヨコのカギを解いて1～5の文字をつなげると、4月にちなんだ言葉が浮かびます。さて何でしょう。

ア	イ	ウ	エ	オ
1	2	3	4	5

ヒント

ヨコのカギ

- ア、引き潮の干潮に出て、貝などをとります。
イ、美味しさの秘密はトリ〇〇スープです。
ウ、アジア大陸の南東部。太平洋とインド洋との間に突き出た大半島。
エ、〇〇〇間の断絶。
オ、ぶら下げること。干柿を〇〇〇。

タテのカギ

- A、日光中に含まれる電磁波。日焼けの原因になる。
B、チューリップと水車で有名な国。
C、世界最大級の建機展「パーマ展」はこの国のミュンヘンで開催される。
D、〇〇〇系の会社に勤務する。
E、〇〇〇ショット。

応募の方法 官製ハガキにクイズの答えと住所、氏名、年齢、職業(会社名)をお書きのうえ応募ください。正解者には、抽選のうえ10名様に記念品を差し上げます。

●あて先 〒101東京都千代田区猿樂町1-4-3

三笠産業株式会社

「三笠ニュース」編集室

●締切り 1994年5月9日(月) 消印有効

VOL.12の答えは「グライコウ」でした次の10名様に図書券をお送りしました。

藤沢光行様(足立区) 田部 等様(佐渡郡) 成田陽子様(弘前市) 日下 修様(登米郡) 浅見初枝様(千代田区) 鈴木真紀様(土浦市) 岩田徹也様(知多郡) 古田里子様(郡上郡) 上村一彦様(札幌市) 玉置元信様(吉野郡)

氏名 川島 隆
生年月日 昭和29年4月16日
出身地 群馬県
所属 第三営業部西販課
家族 妻と娘二人(5才、2か月)に父母



—日頃どんな仕事をしていますか？

西日本の総発売元「三笠建設機械株式会社」さんとの窓口業務を仰せ付かっております。製品手配及び伝票処理の他、お客様からの特別なお要望やご意見・苦情等いろいろなお注文を弊社内各部門と折衝し、より良いお答えが出来るよう努力しております。

—今最も関心を持っていることはどんなことですか？

2月に二人目の娘が誕生し、子育てに追われております。長女(5才)が昨年よりピアノの稽古を始め、音楽の才能のない私ですがドレミの段階くらいならば娘の教本で独学し始めました。この指の運動はなかなかです。これから女系家族化しつつある我家において父としての威厳に関わる事として頑張りたいと思っておりますが、この記事が掲載されるまで続けておりますことやら…

—読者の皆様に一言どうぞ。

マイコンパイプレーターをまだお使いでない方は、是非その軽さ及び強さなどをご体験頂きたいと思っております。また、管理設工事等での掘削埋戻しに於ける採石等の帳圧の効率化を目指したパイプロコンパクターも昨今脚光を浴びております。是非ご検討下さい。

我ら三笠パイプラーズ



氏名 丹野 栄治
生年月日 昭和40年11月13日
出身地 東京都
所属 第二営業部静岡課
家族 独身

—日頃どんな仕事をしていますか？

平成4年12月に静岡営業所が開業され、それから約半年後の平成5年7月から静岡営業所にまいりました。主に静岡県東部地区のお得意様を訪問し、商品説明をさせて頂いたり、同行販売などでユーザー様に製品PRをしたりの毎日です。

—今最も関心を持っていることはどんなことですか？

やはり一番はサッカー「Jリーグ」。以前からサッカーの試合を国立競技場で見ましたが観客(サポーターとは呼べない)も疎らだったのに今ではチケットをとるのにも一苦労です。試合のある日は早く仕事を終え、テレビ観戦をしたいのですがなかなかそうはいかないものです。応援しているチーム名を書きたいところですが、仕事に差障りがでると困りますので、ここでは伏せておきます。

—読者の皆様に一言どうぞ。

入社して10年たちますが、営業に移ってからは2年余りです。まだまだ半人前でお得意様には色々とお迷惑をお掛けすると思っておりますが、皆様のお役に立てるように頑張りますのでご指導のほど宜しくお願い致します。